

リーダーの条件

—— 的確な判断力をもつこと ——

平成二年における比治山女子短大の学生数は、一四四九名という開学以来の大人数となった。その初め、二三名で出発した頃を思えば、隔世の感がある。しかし、量の増大で質の低下を招くことがあってはならない。私達は、このことに特に注意して、本学に入学してきた諸姉の期待を裏切らないよう精進したいと思っている。

リーダーの条件
さて、目前に球技大会が迫ってきた。毎年初夏に行われるこの大会は、秋の大学祭と共に学友会主催の二大行事である。今大会もまた、過去におけるそれと同様、学友会諸姉のリーダーシップによって、素晴らしい成果を納めるであろうと、私は信じて疑



比治山女子短期大学付属幼稚園の運動会の一コマ

わない。ただ、県立体育館の建て替え工事のため、サンプラザをお借りすることになったが、果して新会場で大丈夫だろうか、そのことのみは案じている。

しかし、その心配は紀憂に終りそうである。というのは、球技大会が近づいてきた六月一八日、テニスコート下の掲示板に、大会開催を示す手書きの大きなポスターが貼られ、二二日には、サンプラザへの交通案内図も貼り出された。また、「あと一三日」というように、大会開催日までの日数をも示して、全学生の関心を高めようと配慮しているのである。「よくやっているな」と私は感心した。必ずや、立派な大会になること間違いないであろう。

ところで、一般に、大きな行事を行う場合、リーダーの質がその行事の成否を左右する。そればかりか、その一年間の学生生活の充実度にも大きな関わりをもってくる。本学が、毎年の年度始めに、リーダートレーニングを行う趣旨はここにある。そのとき、体育系の先生や学生部の先生方が、リーダーとしての技能や意識について指導下さるのであるが、私もまた、「五訓」を基盤に講話することを本務と考えてきた。

ところが、先日、かつて歴史学の教授として本学にお見えになっていた、島根の岩成博先生からお便りを頂いたのであるが、その中に、山陰地方の新聞の切り抜きが入っていた。それは、「比治山高女で原爆体験」という見出しの、諸姉の先輩にも当たる堀江清子さんという方のものであった。そして、その体験記には、およそ次のようにあった。

昭和二〇年八月六日朝八時一五分、一年萩組の教室を掃除していたとき、ピカッとオレンジ色の閃光が廊下を

走って、広島は灰燼に帰した。国信校長先生は、「新型爆弾だ。君達は若い。未来がある。もし毒ガスがあると大変だ。歩ける者はすぐ仁保山へ登って山の中でオゾンを吸え」とおっしゃり、更に、通学列車単位に班を組ませ、町中をさけ、遠回りして帰るよう指示されたという。

芸備線通学だった堀江さんは、同じ線で通っている他の一人と共に、指示された通り、仁保——東雲——大洲——東大橋を渡って中山峠を越え、一番遠回りして、家に帰り着いたのは午後四時頃だったという。堀江さんは、今思い出す度に、いざという時はリーダーの的確な判断がいかに大切かを感じます。あの時、校長先生が、「毒ガスがあるかも知れない。山へ登ってオゾンを吸え。帰る道はなるべく町を通らないで遠回りをして帰れ。当分町中へは入らないように」と指示された。このお蔭で、私はまた放射能障害なしです。本当に感謝しています。

と申しておられる。

この火急の時にありながら、国信先生の生徒へのご注意は、まこと冷静かつ沈着にして事に動じない見事な指示であったと思う。その的確な判断には、全く敬服という外はない。私は、この堀江さんの記事に接し、改めてリーダーとしての条件に、「五訓」の体得に加え「的確な判断力」をもつことの必要性を強く感じたのである。この七月一五日、北海道旅行団が発するのであるが、旅行団の諸姉が、先生方の指示に従い、的確な判断をされて、無事故で楽しい旅をして帰ってきて欲しいと、今そのことをのみ願っている。